

# 研修だより

矢島小学校

19

05.6.29

## 討論に適した論題とは

第1回目の授業研究会、ご苦労様でした。3年、6年ともに主張のあるいい授業だったと思います。今後の研究の方向性を確認するという意味でも、意義ある授業提示になりました。すぐに第2回の研究会がありますが、これも、協力してよいものにしていきましょう。

さて、授業検討会で話題になったことの一つに、「ディベートの論題」がありました。まず。討論にならないものの典型を紹介しましょう。

「朝食はパンがいいか、ご飯がいいか。」

宇佐美寛氏は次の理由を挙げています。

1. 個人本人が自由に決めるべき事柄である。
2. 価値判断は、最終的には、「いいから、いいのだ。」しか言えなくなる。討論は言葉で理由が言えるから成り立つのである。
3. 「1」とは違う理由で「そんなことを論じさせるな!」という立場はあり得る。
4. 調べればわかるようなことを論じさせるべきではない。
5. あまりに多義的で広がりすぎる論題では討論ができない。

これと同じ類の論題に「動物園にいる熊と、森にいる熊と、どちらが幸福か」「物語を味わうなら、本がいいか、テレビがいいか」などが該当すると、氏は指摘します。本校所有のビデオで紹介されていたディベート論題「ペットにするなら犬がいいか、猫がいいか」も、まったくこれと同じであると考えられます。

では、どんな論題ならいいのか？

宇佐美氏は、それはディベート提唱者が基準を示すべきである、としています。(涙...)

高橋個人としては、枠組みで紹介した条件の逆を満たせばよいと考えてきました。

今回の授業の論題、「携帯電話は小学生に必要なか」は「3」を除くすべてを満たしていると判断しましたが、いかがでしょうか？

最後に、ディベート授業と人権教育の関連で、自分が再認識したことを紹介します。

ディベートで相手を納得させるためには「コミュニケーション能力」が不可欠である。これは、相手の存在を無視しては成立しないものである。